

一般質問

障害者福祉への
対応について

村川四郎 議員

質問 新市建設計画に「身体・知的・精神障害者のため各種施設の整備を図る」とあるが対応は大変遅い。以下について問う。

- ・「岩の平園事件」の再発防止対策と処分。

- ・精神、知的障害者の現状と今後の対策。

- ・南部の知的障害者通所施設（クローバ）を閉園の幼保育園へ早急に移転を。

市長 岩の平園の指導、監督義務は県だが、市は佐渡福祉会へ改善を求め、防止策の報告を受けている。精神障害者は1439人。施設建設予定は、相川に小規模通所施設、真野に生活訓練施設や地域生活



岩の平園（知的障害者福祉施設）

支援センターと福祉ホーム。南部に小規模授産通所施設の計画がある。

知的障害者数は430人、佐渡福祉会の施設以外は、通所作業所として相川希望の家と愛ランド佐渡へ運営費補助を実施。今後、相川に小規模授産通所施設を建設予定。

社会福祉課長 市は合併後、障害者福祉に前向きに取り組んでいる。特に精神障害者の福祉支援はゼロに近かったが、通院費等を充実させた。クローバ1移転は、議員と同感であり早急に対応する。

質問 策定が遅れている「地域医療計画」はいつできるのか。

・両津・相川両市民病院

の位置付けは。
・市の理想的医療体制は将来どうあるべきか。

市長 医療計画の原案作りに、市民病院医師と関係職員で検討会の立ち上げ準備中であり、1年半後に方向性を示す。

計画には、理想的医療体制と両市民病院の位置付けも明確に示す。

介護費用軽減対策に

質問 高齢者の介護予防効果が大きいゲートボール競技の奨励と、健康栄養維持に福祉牛乳の復活を。

市長 ゲートボールの効果は指摘の通りであり、老人クラブを介して補助をする。

社会福祉課長 市が、旧新穂村の条件（75歳以上に週4回配達）で「福祉牛乳」を行うと1億3500万円必要となる。配達方法や賞味期限の問題もある。

畜産振興について

質問 市は畜産と自然を生かし「アグリ・ツーリズム観光」を目指すべき。
・畜産業の位置づけは。
・畜産振興へ県に専門職員の増員を求めよ。

・ドンデン山を観光牧場化で人気スポットへ。
・牧場整備の段階と南部に牧場新設を。

市長 畜産は佐渡の農業生産サイクルの主要な一部と理解し、「農林水産再生戦略プラン」の中で地産地消も含め検討する。ドンデン観光牧場化は、芝生再生と牛の管理も含め実現可能か検討する。牧場整備計画は、本日も議論を開催し、その結果で検討会を立ち上げる。

農林水産課長 南部の牧場は検討会の中で議論をする。畜産業を復活する前提で県に職員増員を要望していく。